

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-226932

(P2017-226932A)

(43) 公開日 平成29年12月28日(2017.12.28)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 4 1 B 11/14 (2006.01) A 4 1 B 11/14 E 3 B 0 1 8

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2016-123341 (P2016-123341)	(71) 出願人	592159841
(22) 出願日	平成28年6月22日 (2016. 6. 22)		関東ナイロン株式会社
			東京都豊島区高松 1 丁目 1 1 番 1 6 号
		(74) 代理人	100081558
			弁理士 齋藤 晴男
		(74) 代理人	100154287
			弁理士 齋藤 貴広
		(72) 発明者	橋本 夏海
			東京都豊島区高松 1 - 1 1 - 1 6 関東ナ
			イロン株式会社内
		F ターム (参考)	3B018 HA05 HB07

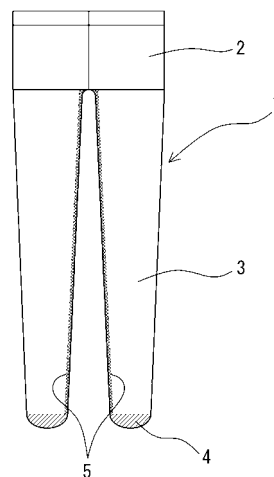
(54) 【発明の名称】 レッグウェア

(57) 【要約】

【課題】 穿き始めから穿き進んで最後の爪先部に達するまでのすべての段階において、前後の識別が容易であり、脚部の擦れによる穿き直しをする必要がないパンティストッキング等のレッグウェアを提供することを課題とする。

【解決手段】 脚部 3 の全長に亘り、縦方向に直線的に伸びる線状、帯状又は面状のラインマーク 5 が形成される。ラインマーク 5 は、脚部 3 の編み上げと同時に、脚部 3 とは異なる編み組織にてもしくは太さの異なる糸を用いて編み込んで形成され、あるいは、脚部 3 に糸を直線的に定着して形成される。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

脚部の全長に亘り、縦方向に直線的に伸びる線状、帯状又は面状のラインマークが形成されていることを特徴とするレッグウェア。

【請求項 2】

前記ラインマークは、前記脚部の内側面に沿って形成されている、請求項 1 に記載のレッグウェア。

【請求項 3】

前記ラインマークは、後部の全面に亘って面状に形成されている、請求項 1 に記載のレッグウェア。

【請求項 4】

前記ラインマークは、前記脚部の編み上げと同時に、前記脚部とは異なる編み組織にてあるいは太さの異なる糸を用いて編み込んで形成されたものである、請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載のレッグウェア。

【請求項 5】

前記ラインマークは、前記脚部に糸を直線的に定着して形成されたものである、請求項 1 又は 2 に記載のレッグウェア。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、レッグウェアに関するものであり、より詳細には、パンティストッキング、ストッキング、タイツ等を含む女性用のレッグウェアであって、着用時に前後の見分けが容易なレッグウェアに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

例えば、パンティストッキングは腹部と脚部とから成り、全体的に伸縮性に富む組織に編み上げられている。しかし、パンティストッキングは一般に、その形態上前後が判然としないものが多いため、着用時に前後を容易に確認することができるようにするための工夫がなされている。

【0003】

例えば、腹部に前後識別マークを編み込むことが提唱されている（特許文献 1：実開平 1 - 22711 号公報）。ところで、パンティストッキングの脚部は、新品時には折り目がしっかりとしているが、着用回数や洗濯を重ねたりすることにより型崩れし、次第に折り目がなくなってくるため、脚部の擦れを視認できなくなり、着用時に擦れたまま穿いてしまい、穿き直しをしなければならないことが少なくないが、腹部に前後識別マークを編み込む構成によっては、この事態を回避することができない。

【0004】

また、上記脚部の擦れを考慮して、パンティストッキングの腹部に前後識別マークを編み込むと共に、爪先部の足底側又は甲側に、足底と甲の識別マークを付すことが提案されている（特許文献 2：実開平 6 - 4006 号公報）。しかし、この提案に係るパンティストッキングの場合、足底と甲の識別マークがその効果を発揮するのは、穿き進んで最後の爪先部に達した段階であり、そこに至る過程において、脚部の擦れの視認の助けとなる訳ではないので、やはり上記事態を回避し得るものではない。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0005】**

【特許文献 1】実開平 1 - 22711 号公報

【特許文献 2】実開平 6 - 4006 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】**

【 0 0 0 6 】

上述したように、従来、パンティストッキング等の着用時において、その前後を容易に確認することができるようにするための工夫が種々なされているが、それらは、穿き始めから穿き進んで最後の爪先部に達するまでのすべての段階において、前後の識別を容易にし得るものではなく、脚部の擦れによる穿き直しの手間の発生を回避し得るものではない。

【 0 0 0 7 】

そこで本発明は、穿き始めから穿き進んで最後の爪先部に達するまでのすべての段階において、前後の識別が容易であり、脚部の擦れによる穿き直しを余儀なくされるおそれがないパンティストッキング等のレッグウェアを提供することを課題とする。

10

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

上記課題を解決するための請求項 1 に係る発明は、脚部の全長に亘り、縦方向に直線的に伸びる線状、帯状又は面状のラインマークが形成されていることを特徴とするレッグウェアである。

【 0 0 0 9 】

一実施形態においては、前記ラインマークは、前記脚部の内側面に沿って線状又は帯状に形成され、他の実施形態においては、前記ラインマークは、後部の全面に亘って面状に形成される。

【 0 0 1 0 】

20

一実施形態においては、前記ラインマークは、前記脚部の編み上げと同時に、前記脚部とは異なる編み組織にてもしくは太さの異なる糸を用いて編み込んで形成され、あるいは、前記ラインマークは、前記脚部に糸を直線的に定着して形成される。

【発明の効果】

【 0 0 1 1 】

本発明に係るレッグウェアは上記構成であって、上下方向に連続して伸びる識別ラインを備えているので、その識別ラインを見つつ着用することで、穿き始めから穿き進んで最後の爪先部に達するまでのすべての段階において、前後を誤ることがなく着用することができる、脚部に擦れが発生した場合においても、それを修正しつつ着用することができるので、穿き直しをする煩わしを受けるおそれがないという効果がある。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 2 】

【図 1】本発明に係るレッグウェアの一実施形態を示す外観図である。

【図 2】本発明に係るレッグウェアの他の実施形態を示す外観図である。

【図 3】本発明に係るレッグウェアの更に他の実施形態を示す外観図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 3 】

本発明を実施するための形態について、添付図面に依拠して説明する。図 1 乃至図 3 は、本発明に係るレッグウェアの一実施形態として、パンティストッキング 1 に適用した場合の外観図である。このパンティストッキング 1 は、一般のものと同様に、腹部 2 と脚部 3 と爪先部 4 とから成り、各部は一般のものと同様に編み上げられる。図示していないが、腹部 2 の内側には、従来と同様の前後識別マークが付される。

40

【 0 0 1 4 】

本発明に係るパンティストッキング 1 の場合は、更に、腹部 2 から爪先部 4 に至る、線状、帯状又は面状のラインマーク 5 が付設される。ラインマーク 5 は連続するものに限らず、破線のような不連続のものであってもよいが、いずれにしても直線的な一つながりのものとされる。また、ラインマーク 5 は、脚部 3 と同色にして余り目立たないように形成することが好ましい。なお、添付図面に記載されているラインマーク 5 は、本発明の理解を高めるために、強調して目立つように表示してあるが、実際には、このように目立つものではないことを理解されたい。

50

【 0 0 1 5 】

図 1 及び図 2 に示される例におけるラインマーク 5 は、常法による脚部 3 の編み上げと同時に、脚部 3 に沿って、例えば、幅 1 c m ほどの帯状（図 1 ）又は面状（図 2 ）に編み上げて形成される。但し、その部分は、脚部 3 とは異なる編み組織、例えば、メッシュ編みにされ、あるいは、太さの異なる糸を用いて編み上げられる。メッシュ編みにしたり細い糸を用いる場合には、その部分の通気性を向上させることができる。また、別の実施形態におけるラインマーク 5 は、脚部 3 を編み上げた後に、脚部 3 に用いる糸よりも太い糸を、縫い付けたり、接着したりすることによって形成される（図 3 ）。

【 0 0 1 6 】

図 1 及び図 3 に示す例では、ラインマーク 5 は内側面の縦方向中心線に沿って、腹部 2 から脚部 3 を経て爪先部 4 に達するように直線的に形成されており、また、図 2 に示す例のラインマーク 5 は、後面部の全体に亘り、面状に形成されている。

10

【 0 0 1 7 】

本発明に係るパンティストッキング 1 の場合は、腹部 2 の内側の前後識別マークを目印にして前後を認識した後、従来と同様にして、足を差し入れて手繰り上げながら着用する。その際、ラインマーク 5 を目印にして穿き進めていけば、脚部 3 の擦れを明確に視認することができるので、途中で擦れを修正しながら、前後誤りなく着用することが可能となる。

【 0 0 1 8 】

上記説明はパンティストッキング 1 を例にしたものであるが、他のストッキング、タイツ等のレッグウェアについても、上記パンティストッキング 1 の場合と特に変わりはない。

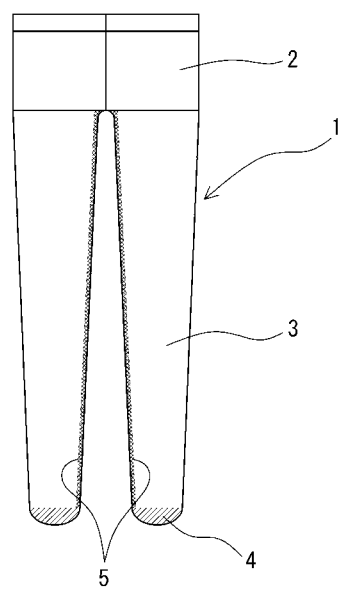
20

【 符号の説明 】

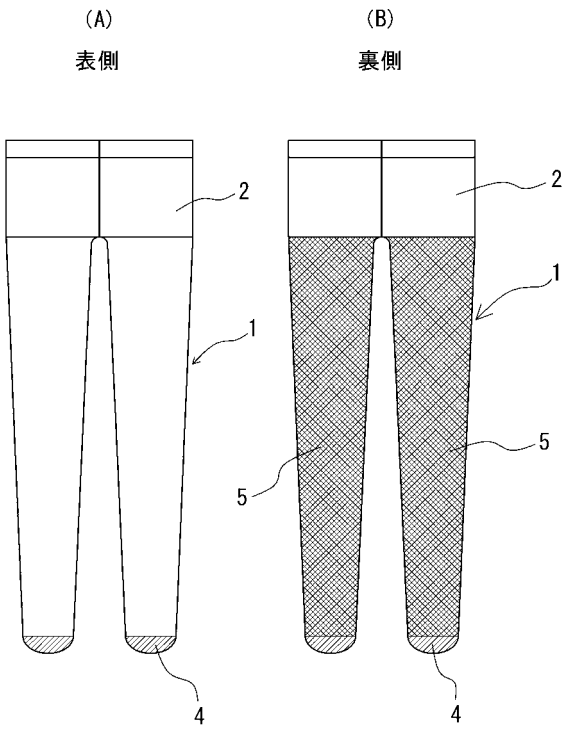
【 0 0 1 9 】

- 1 パンティストッキング
- 2 腹部
- 3 脚部
- 4 爪先部
- 5 ラインマーク

【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】

